

「地域のボランティアコーディネーター養成講座・自治会リーダー養成編」報告書

日時：平成24年9月19日(水) 13時30分～15時30分

場所：あしや市民活動センター 多目的室 A、B

講師：海士美雪（(特活)あしやNPOセンター ボランティアコーディネーター）

参加者：〈敬称略〉岩尾（三条町自治会）岩朝、堀（打出小槌町自治会）武内達明（楠町自治会）
小倉（浜風四住宅管理組合）田中順三（海洋町一街区自治会）上野義治（理事）

オブザーバー：北川部長（芦屋市市民生活部）福島課長、中嶋課長代理（同市民参画課）

1：ご挨拶（北川部長）

2：事業説明（福島課長）

3：自己紹介と課題など〈敬称略〉

- ・町内に一人でもリーダーをやってやろうという興味を持つ人が出ることを期待。
- ・役員の期限を決めていないが決めるのも手かも知れない。集会所がない。
- ・マンション自治会との関係など課題の整理。本気で真剣に取り組みたい。
- ・75軒の自治会。色々な世代が混在していて偏りが無い。その結果、土日曜日しか活動できない。皆のことを把握できない。
- ・90軒のタウンハウス。管理組合長が自治会長を兼ねる。自治会の仕事は大変だった。高齢化と若い人の無関心が心配。
- ・新しい人も快く受け入れる風土が作られている。自治会と住民の関係が良い。
- ・三条町自治会は婦人会から発展。男性の参加が少ない。後任がいなく6年継続。

4：地域のボランティアコーディネーター養成講座・自治会リーダー養成編

コーディネーターの海士からレジュメに従って説明。

レジュメ以外にはない幾つかの説明ポイント

- ① 考え方の基本として「自治会は一つの家族で、会長がお父さん。お父さんは自治会という家族を守って、安全に安心して過ごせるようにすることが必要。そのためには、一人でそれを行うことは難しく、一緒に協力するパートナーが必要である。」
- ② 自治会活動を継続するためには、先ず課題を整理し、「すぐ出来ること」「準備が必要なこと」「将来的なもの」に分類。出来ないことは、なぜできないかその原因を分類する。
- ③ 具体的なアクションでは、自治会なりのネットワークを作って共有することが大切。
- ④ 考える過程は人と協力してやっても、最終的にはリーダーが結論を出していかなくてはならない。

事例：ゴミ出しが困難な方に、安価な有償で支援しているというケースがある。

また、障害児を自宅から支援学校の送迎バス乗り場まで、同行する活動。

いずれも、そのためだけに遠くからボランティアがくることはどうなのだろうか。近隣での支えあい（互助）の仕組みはできないか。

- ⑤ 家庭の生ごみを他人に出してもらうのは嫌な人もいるし、自分が働いているので障がいを持つ子をバス停まで送ってくれと近所の人に頼みにくいこともあるが、「お互い様」の仕組みがあれば上手くいくかもしれない。
- ⑥ 資源ゴミについては、実際に近隣で支援していることはある。
- ⑦ 「自治会活動に若者が参加しない」の中身を見た時、「若者が居ない」と「若者が来ない」では対応方法などの考え方が異なる。

5：講座を聴いた後の自由討議で出た意見等

- ① 有償・無償の問題…自治会内に配布や回覧するためのコピー代（行政からの配布は一部のみなので）など、自前でやっている。少しの金額でも事務局費を出した方がよいのではないかな？
- ② 自治会によっては自治会費から少額の金額を理事に出している自治会もあるし、全く無償の自治会もある。
- ③ リスクマネジメントとは？との質問に対し、講師の「何かがあった時はどう対応するかを決めとおくこと。例えば保育士が近くにいるのでいざという時は力を借る等…」との回答を受けて納得された。
- ④ 生ゴミ出しに困った人を、近所の人ボランティアで手伝っていたが、途中から少し金を出すことにした。いいねとの意見があった。
- ⑤ 講座を受けて二つのことをやろうと決意した。
 - 課題を出してみる。
 - 自治会長の役割を洗い出してみる。
 （仕事をしながら自治会活動をやっているが、一人ではできない。コピー代も自前でやっているが、自治会は何をやっているのかと、非難を受けることもある。一人でやるには負担が大きいのので役割分担を考えたい。事務局費も出してもらいたい。）
- ⑥ 市からの依頼がどの位負担になっているのか？（北川部長）
（事務局）データを取って実情を把握する必要を感じた。
- ⑦ 自治会活動にはこれくらいの費用がかかるということを積算してみることも必要。

以上

